

ウィークエンド・シネマ 9月～12月



大阪空襲を語り継ぐ 平和ミュージアム

ピースおおさか



ヒロシマ・ナガサキ

各土曜日 午後2時～

予約不要(当日先着順、定員 160 名)

参加費無料(ただし入館料が必要)

【会場】ピースおおさか 1階講堂

被爆・戦後 80 年特別企画 特別展「ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展」の開催にあわせ、関連作品を上映します。

9月6日、13日、20日、27日

千羽づる

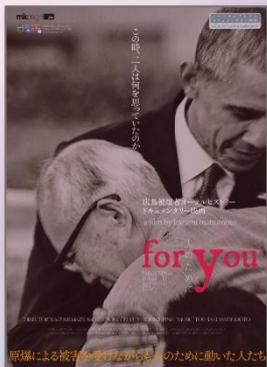


昭和29年4月、広島。佐々木禎子は小学6年生になった。活発で心の優しい禎子は友達も多く、スポーツも得意で楽しい学校生活を送っていた。秋の終わり、禎子は体調を崩すがなかなか回復しない。ABCC（原爆傷害調査委員会）の検査を受けた結果、被爆が原因の白血病であることが分かる。幼くして被爆した少女の短い生涯を映画化した涙の傑作。

監督：神山征二郎 原作：手島悠介

出演：倍賞千恵子、広瀬珠実、前田吟、石野真子、田村高廣ほか

96分 1989（平成元）年 日本 カラー



10月4日、11日、18日、25日

for you 人のために

広島で被爆しながらも人のために尽くし続けた人たちを記録したドキュメンタリー。原爆投下時に、米軍捕虜が広島にいた事実を追い続けた森夫妻や、投下後の広島で救護活動を行った外国人神父たちへのインタビューなど、国境を超えた助け合いの姿を紐解く。また医療や経済援助のための被爆者手帳制度などにもスポットを当てる。

監督：松本和巳

75分 2022（令和4）年 日本 カラー

11月1日、8日、15日、22日、29日

生きる FROM NAGASAKI



長崎被爆者の証言を集めたドキュメンタリー。原子爆弾が投下された惨劇の中、生存者の救護にあたった者がいる。終戦直後、ある少年の家では、立ち寄る米兵に頼まれるたびオルガンで“きよこの夜”を弾いた。今まで語られなかった7名の新たな証言を収録し、壮絶な被爆体験を乗り越え、生きてきた人々の“生きる”力と思いを現代に伝える。

監督：松本和巳

72分 2022（令和4）年 日本 カラー



12月6日、13日、20日

風が吹くとき（日本語吹替版）

イギリスの片田舎で平穏に暮らすジムとヒルダの夫婦は、二度の世界大戦をくぐり抜け、子どもも育て上げ、いまは老境に差し掛かっている。そんなある日、2人は近く新たな世界大戦が起こり、核爆弾が落ちてくるという知らせを聞く。核戦争の恐怖を描いた名作アニメ。

原作は、絵本「スノーマン」で知られるレイモンド・ブリッグズ。長崎の原爆により親戚を失った日系アメリカ人のジミー・T・ムラカミが監督した。日本語版の監督は「戦場のメリークリスマス」の大島渚。

監督：ジミー・T・ムラカミ 原作：レイモンド・ブリッグズ 音楽：ロジャー・ウォータース
日本語版監督：大島渚 声の出演：森繁久彌、加藤治子ほか 主題歌：デヴィッド・ボウイ

84分 1986（昭和61）年 イギリス カラー アニメ

被爆・戦後80年特別企画 特別展 「ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展」

2025（令和7）年8月22日（金）～12月27日（土）

ピースおおさか1階 特別展示室

【対象】どなたでも（小学生以下は保護者の方と同伴）

【入館料】大人250円、高校生150円、中学生以下は無料

65歳以上・障がい者の方も無料（要証明書）、20名以上は団体割引

【主催】公益財団法人 大阪国際平和センター（ピースおおさか）

〒540-0002 大阪市中央区大阪城2-1 TEL 06-6947-7208

<http://www.peace-osaka.or.jp> FAX 06-6943-6080

JR環状線「森ノ宮」北出口・Osaka Metro「森ノ宮」①番出口

